

# 福祉文教委員会

## 庄川地域の子育て・教育環境について 庄川町まち協・庄川の子を育むための 検討委員会との分野別市民意見交換会

平成30年3月、庄川町まちづくり協議会・庄川の子を育むための検討委員会より、議長に対し、「庄川の子どもを育むための提言」が提出された。

これを受け、所管の福祉文教委員会において、提言に至った経緯や、地域の思いについて意見交換するため、5月22日、庄川町の保育園、小中学校の現地視察と合わせて、分野別市民意見交換会を行った。

(提言の基本的事項)  
◎保・小・中一貫教育

による教育環境づくり  
◎地域のコミュニティの拠点づくり

◎将来の担い手づくり  
(施設整備に対する基本的な考え方)

同一敷地内に機能別(福祉、教育)複合施設を新たに整備し、効率的な一貫教育の推進や世代間交流、幼児、児童生徒、教職員、高齢者、地域住民の利便性と多様性の向上を図ることにより、家庭・地域が「人づくり」に積極的に関わることができ、施設の整備。

(主な意見)

◆庄川の若者たちは、小さい頃から伝統文化を学び、村芝居を継承している。近くに子どもが居ることで、地域愛が生まれ、芝居や祭も定着していくと思う。  
◆庄川の良さを全国に発信し、人生80年の内

子育てや教育の15年・庄川で過ごしていただけたらと考えている。

◆庄川の自然や歴史に誇りを持てるような教育環境づくりに取り組んでいきたい。そうすれば、子ども達は庄川の未来を担っていつてくれるのではと思う。



老朽化が進む庄川中

※庄川中学校(築55年)では、当初二百名ほどいた生徒は、現在24名となり、約10分の1の人数で校舎の掃除等を行っている。

### 今後の取り組み

庄川のまち協が主体となり、住民の総意として提出された提言を重く受け止め、高山市における各地域の多様性に応じた教育・子育て環境について、調査研究を続け、政策提言につなげていく。

## 健康寿命の延伸に ついで

### 調査内容 成人の健康状態の状況

平成28年度の特定健診の結果では、市国保加入者の受診率は約53%、県内では6位。保健指導率は、約93%、県内トップであった。

健診結果では、肝機能の検査項目の有所見率は、県内国保加入者の平均を上回っている。また、1日の食塩摂取量については、国の目標値を超えて摂取している人が多い。

糖尿病の指標(HbA1c)については、脳や心臓などの大血管障害の合併リスクが高くなる人、糖尿病特有の合併症(腎臓・網膜症・神経障害)のリスクが高くなる人の割合は減少しているものの、糖尿病治療開始の目安とされる6.5〜6.9の割合が上昇している。

### 今後の取り組み

6月より、健康ポイント事業が新たに実施されている。各種健診の受診など個人の健康づくりの取り組みについてポイント制を設け、貯めたポイントにより、健康づくりの意識を向上させる賞品等を贈るもので、従来の方策による勸奨や啓発に加え、健康づくりに無関心な市民への働きかけとして期待するものである

が、委員会においても、事業の実施状況に注目し、引き続き健康長寿の延伸に向けた動機付け策について、調査研究を進める。

### 新火葬場候補地の選考方法について(協議事項)

高山市新火葬場建設検討委員会からの答申を受け、市が決定した選考方法について、6月19日、協議を行った。

候補地の選考方法は、

答申のとおりとする。  
選考基準

基本構想に掲げる基本コンセプト及び基本方針に従い、利用者、近隣住民の生活環境、自然環境及びコストなどに配慮した15項目。

### 選考手順

◆選考経過を随時理由を付して公表し、プロセスの透明性を確保。

◆総合的にみた適地を選出するため、候補地相互の比較をしないまま数値基準で一律に対象外とすることなく、現地視察も踏まえ絞り込みや順位付けを行う。

### 委員会の意見

質疑の後、市民意見への対応といった論点について、議員間討議を行い、次のとおり、委員会の意見をまとめ

た。  
選考過程においては、市民が納得できるような公平性や客観性を確保し、市民意見に対し真摯に対応すること。